

米国 コネティカット州 ウォーター・ベリー市にある、ゼンジマー本社への2度目の出張だった。前回は商社の人々がニューヨーク JFK 空港でピックアップしてくれ、リムジンで連れて行ってくれた。リムジンでの移動は快適だった。

今回の出発に際し、営業から「前回と同じ所に行って欲しい。商社の空港でのピックアップは無い」とだけ指示された。独りタクシーで現地まで行くしか無いのかと諦め、ホテルの予約だけは頼んで日本を発った。

ニューヨーク JFK 国際空港に降り立った。



《さあ～て！ タクシー乗り場はどちらかな》と眺め渡していると、大男のアメリカ人が「迎えに来ました」と私の名前を呼びながら近づいて来た。「えっ？ 迎えが有るとは、聞いてないよ！」と返したのだが、彼は言った。「通信トラブルで貴方に連絡が出来なかったが、私が迎えに来る事になった」私の名前を知っている。しかも辻褄の合う返事に、つい信用してしまった。それがそもそものハプニングの始まりだった。

(後で気が付いた事だが、スーツケースに貼ってあった英文の苗字のステッカーがトラブルの引き金だった様だ。以降、これに懲りて名前のステッカーは付けない事にした)

その大男の後ろについて駐車場に行った。そして見たのは、前回と違ってボロッチイ！ 商社迎えの車ならちょっと変！ そう思った時には、私のスーツケースは太い腕で軽々と車のトランクに仕舞われていた。

車が走り出した。空港の端まで来た時だった！ 車が止まった。「何故？」と思った時には、助手席に厳つい凄い体格の男が乗ってきていた！ 助っ人だ！ やられた！ 罠に嵌ってしまった事を悟り背中が瞬時に凍り付いた。それにしても巧妙だ！

《さあて、これからどうしよう！》このままでは、良くて暗がりに入れて行かれ、身ぐるみ剥がされて、放られるのが落ちだ！ と思った。

しょうがない！ じたばたしても無駄と肚を決め、悠然とニューヨークを知り尽くしている振りをしよう！

出張紀行 3 - アメリカ JFK 空港発のハプニング その1 - その2へ続く

ところで、この運ちゃんに行く先を未だ聞いてきていない！ 商社が手配した車なら行く先を言わないでも行くのは当然だが、この人達は何処に連れて行こうとしているのだろう。《やばいよ、これって！》

ここは心中を悟られぬ事が大事だ！ 先手を打って、行く先を目的地に向かわせられぬかと、咄嗟に考えて言った。「行く先は、知っているだろうけど、コネティカット州のウオーター・ベリーだよ」途端に、運転手が「What's?」と聞き返した。

《やばい、やばい！》心の中で危険シグナルが激しく点滅した。《やはり、何処かに連れて行くつもりか！》

僕はその質問を無視して、わざとこう言った「道が違うんじゃないか？」

運転手は答えた。「今日は、こちらの方が空いているんだよ。ところで、行く先を“コネティカット”って言った？ そんな所無いよ！」

「え～！」何度もコネティカットと言った。心の中では叫びになっていたかも。

しばらくのやり取り後、漸くして分かった“カナリカット”と発音する事を！ そこでお互いに、思わず笑いあった。多分アメリカ人の笑いは、「日本人って、発音が悪いな～！」だろうな！ 僕の笑いは、「日本ではコネティカットというんだよ！」という諦めの苦笑い！

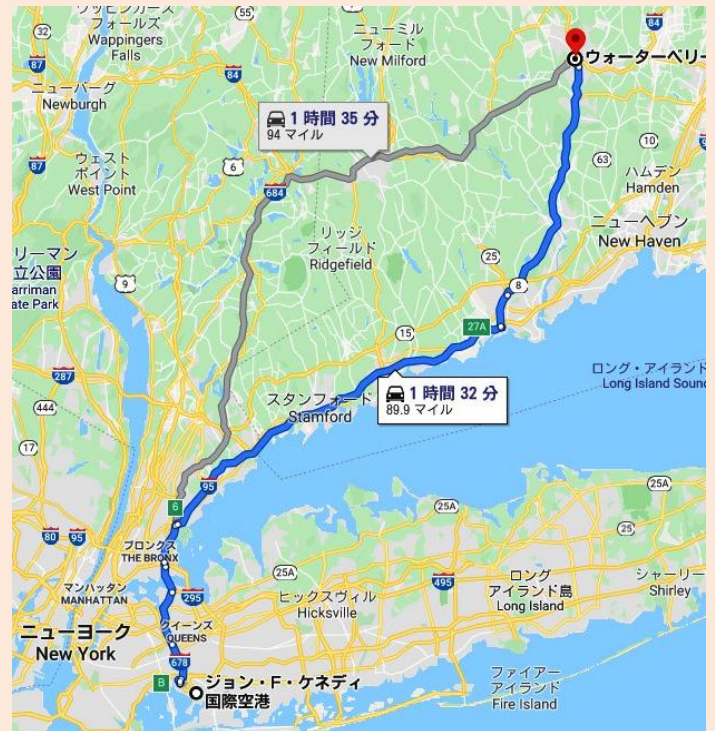
しばらく走っていたら、見覚えのあるハイウエーに乗った。という事は、命や物取りが目的ではなく、料金のポツタクリだろう！《命を失う等の最悪事態は避けられそう！》と思い少々安堵した。

だが、とんでもない疑問が湧いてきた。営業指示の行先は正しいのか？ そしてホテルの予約は？

《どうせ、ふんだかれるのなら、こいつらをこき使ってやれ！》と思いつき、助手席に座る助っ人に「ウオーター・ベリー市にある、前回宿泊したホリディ・インに予約が入っているかどうか確認してくれ」と指示した。路肩に車が停止し、助っ人が素直に車を降りて道路脇に立つ電話ボックスに向かった。戻って来て言った「予約が入っていないよ！」

私は心の中で叫んでいた《えっ！ どうなってるんだ？ ホテルが予約されていないという事は、打合せ場所は営業が前回と同じと言っていた ウオーター・ベリー市じゃないって事?!》

暴力タクシーらしい人達に捕まった挙句、更に行く先も違う？《営業は何～も、アレンジしていないどころか、出鱈目の指示で出張させたのか！》と、困惑と同時に怒りが込み上げて来た。



とんでもない事態だ！ 必死に考えを巡らせた。

☆ 営業は、「前回と同じ所」としか教えてくれなかった。

それなら、ウオーター・ベリー市だが、ホテルの予約が入っていないのは何故？

☆ それじゃ、どこで打合せをやるつもりか？ それとも、ホテルの予約さえ入れてくれていない！？

行く先が分からない以上、取り敢えずはゼンジマー本社が有る ウオーター・ベリー市に行くしか選択肢は無い！ と肚をくくった。

そして、助っ人に再度指示を出した。「ホテル ホリディ・インに予約を入れてくれ！」 助っ人は又、素直にホテルに電話を入れ、役目を果たして戻って来た。

それを見て感じた《この人達はそれ程の悪者でもなさそう！》

車は、ハイウエーを再び走り始めた。

取り敢えずホテルまで行けそうな思いで気が緩んだせいかわりに、旅の疲れも有って眠りに落ちた。



出張紀行 3 - アメリカ JFK 空港発のハプニング その2 - その3へ続く

目を覚まして程なくした頃、ウオーター・ベリーへのハイウェイ出口が近づいて来た。そしてホテル・ホリデイ・イン が、木陰の間にチラッと見えた。《身ぐるみ剥がされずにここまで来れた！》

だが安堵したのもつかの間、車はホテルの入口に向かわず、裏手に廻って止められた。

《ほら！ 本性が現れたぞ！》

問題は払う金額だなと肚を決め「How much?」と聞いたら、「Four - Forty」と返って来た。

「4.4\$か?」とわざと聞いた。そして、「No!」と厳しい答えが返ってきた。何度聞いても、「Four - Forty」としか言わない。

「それじゃ、紙に書いてくれ」と紙を渡した。

返って来た紙上には、440\$と書かれているが、4と4の間に微かに、点が見える。これも後に、4.4と言いつつ或いはポツタクリを隠しながら、440\$を請求する魂胆だろうか？ 440\$といえば、多分正規料金の2倍位だろう。

2人掛かりで格闘されたら当然負けるに決まっている。ここは、おとなしくネゴもせずに、支払った方が身の為だ。身代金が220\$なら安いもんだと嗤笑的に考えた。

渋々 440\$出した。途端に彼等はニコツとして「Thank you!」と言った。そして付け加えて「You are very lucky! 俺達だからここまで連れて来れたんだぞ!」と言い、4.40\$ と書いた紙を残して去っていった。確かに、こんな遠いところまで良く来れたものだ。

一方、《何が Lucky だ！ タクシー会社名もサインも無い、4.4\$としか書いていない紙で、どうやって会社で清算すればよいのか?》

でも、考えようによっては、命も持ち物も残ったんだから本当に Lucky だったのかも知れない。情けないのだが！

出張紀行 3 - アメリカ JFK 空港発のハプニング その3 - その4へ続く



ホテルにチェックインし部屋に落ち着いた。

だが、今回の出張指示の内容がどうも腑におちない！

《ひょっとしたら営業の指示とは違い、商社の方が JFK 空港に出迎えに来ていたんじゃないのか？》

そして

《今晚の宿泊はニューヨークだったのか？》



もしやと思って、以前その商社に取ってもらった事のあるニューヨークのホテルの電話番号を調べて電話を入れ、僕の予約が入っていないか訊ねてみた。

そしたら嘘から出た真の様に当にビンゴ！！ 私の名で予約が入っていたのだ。そして更には夕食の招待の為に、夕方7時にピックアップしてくれるとのメッセージも入っていた。という事は、折角のマンハッタンでの夕食もフイにしてしまったのか！

止む無くその夜は、片田舎のレストランで独り寂しく夕食を取る事に！ ひどいよ、このギャップ！

後で分かった事だが、商社の方は弊社の営業に「私は JFK に迎えに行けないが、送迎のリムジンタクシー乗り場で待たせておくよ」

と連絡したそうだ。勿論日本語で！ それなのに、うちの営業ときたら他人事だからなのか「迎えに行けないよ、打合せ場所は前回と同じ」としか伝えてくれなかったのだ！

全くひどい扱いをされたものだ！ 会社でのタクシーの清算を 4.40\$ でやったか?? とんでもない！ 帰国後、憤懣やるかたなく営業に猛抗議！ そして営業の処理にさせた！ 本当は、マンハッタンで夕食を出来るところを！ それにひょっとしたら命まで落とす事になるかも知れなかったんだぞう～！ ともぶちまけたいところだったのだが。

出張紀行 3 - アメリカ JFK 空港発のハプニングの編 その4 - 完